



1月4日、市役所の年頭式での粟市長

ごあいさつ

平成29年1月6日

新年あけましておめでとうございます。毎年のことですが、大晦日から元旦に変わること、随分気持ちを切り替えることができます。

昨年は市制施行5年ということと、10年間のまちづくりの方向性を示す「野々市市第一次総合計画」が中間年を迎えたことにより見直しをいたしました。本市の将来都市像である「人の和で 椿十徳 生きるまち」を掲げ、これから先の5年間も、市民の皆さんのご理解ご協力をいただきながら、公共の経営、市民協働のまちづくり、野々市ブランドの確立の実践に取り組み、さらに加速して進めていきたいと思っております。

さて、年が改まり、3月18日・19日の「第27回全国椿サミット野々市大会」開催まで、時間が迫ってきました。「全国椿サミット」は平成2年3月に、当時の野々市町が、椿を自治体の花木とする全国の自治体に呼びかけ開催した「全国つばきフォーラム」が契機です。次の年からは毎年開催され、大会開催などを審議する「全国椿サミット協議会」は平成7年度に、珠洲市と共同開催した「第6回全国椿サミット野々市・珠洲大会」の際に設立されました。大会の形は少しずつ変わってはきているものの、本市において三度目の開催となります。町の時代に本市で誕生した「全国つばきフォーラム」が大きく成長し、本市に戻ってきたということで、この大会への思い入れはとても強く、感慨深いものがあります。大会の成功がこれからの本市の発展にもつながるのではないかと期待もあります。

提案型協働事業でツバキをテーマに事業募集したということもあるのですが、今回の大会を開催することで、市民の皆さんから自分たち自身も、どのようなことができるのか、全国から参加される方々にどういったおもてなしができるのかといったことを思われ、実際、行動をとられる方々が多いように感じられます。市制施行とともに「市民協働のまちづくり」を進めてきた本市にとって、「第27回全国椿サミット野々市大会」はこれまでの成果の発表の場でもあります。本市を全国に発信するまたとない機会にもなります。

市内には、椿が群生している場所はありません。今回のサミットにあわせてということだけでなく、この際、椿に親しんでいただく場所があればと思い、中央公園に鑑賞や育成する施設や、「椿山」を現在、整備しています。この「椿山」からは白山が眺望でき、市内ではいちばんいい場所になると思います。

今年は白山開山1,300年です。歴史的なことも含めて、白山からはさまざまな恩恵を野々市もいただいています。昨年、白山登山をしましたが、自分たちがその自然の懐のなかで、いかに生かされているか、恵みをいただいているかということ強く感じました。壮大な自然の前では、自分という人間が何をできるのだろうかという気持ちになります。

「初心忘るべからず」をいつも心においていますが、今まで来た道、これから行く道を思い、本年が野々市市や、市民の皆さんにとって、さらに良き年となることをお祈りいたします。